

## 1 事業名 ゆらり三江線 三瓶・銀山 秋の旅

### 2 必要性

平成 22 年 7 月に子ども・若者育成支援推進本部で策定された「子ども・若者ビジョン」の子ども・若者等に対する施策の基本的方向では、「環境学習、自然体験、集団宿泊体験、奉仕体験、スポーツ活動、芸術・伝統文化体験、ダンス等の創作的活動といった様々な体験活動や、異世代間・地域間交流等の多様な活動の機会の提供を推進」と提言されている。また、平成 23 年 7 月に取りまとめられた「今後の環境教育・普及啓発のあり方を考える検討チーム報告書」では、「日本では古来、豊かな自然の中、多様な地域性を持ち、海・山・森などの恩恵を受けてきた。同時に、災害に対する知恵なども培ってきた。このような、人と自然との関わり方は日本の文化とも言えるものである。しかしながら、近年、環境や自然の素晴らしさ、大切さ、怖さなどを意識・体験する機会が少なくなってきた。このように、人と自然との関わり方は日本の文化とも言えるものである。」と提言されている。本事業では、三江線に乗りながら、沿線の景観美や自然とともに生きた人々の暮らしについて、また、周辺の環境に配慮した「自然環境と共存した産業遺跡」である石見銀山でそれぞれ解説を受けることで、参加者が自然と人との共生に気づくことを意図的に組み入れている。以上提言にあるような国の政策課題に対応した青少年の体験活動事業を推進する国立青少年教育施設として、環境教育に焦点をあてた本事業は先進的に取り組む必要のある事業である。

### 3 趣 旨

地域資源である三江線・世界遺産石見銀山遺跡・三瓶山を巡る旅をし、各講師の話聞くことを通して、人や自然の素晴らしさを感じ、地域、自然に愛着をもつ。また、人と自然との絆を理解することや環境の大切さを認識することをねらいとしている。

### 4 期 日

平成 24 年 11 月 23 日（金）～11 月 24 日（土）

### 5 参加者

- |             |               |          |         |             |      |
|-------------|---------------|----------|---------|-------------|------|
| (1) 募集対象・人数 | 主として小学生とその保護者 | 50 名程度   |         |             |      |
| (2) 参加人数    | 72 名（申込人数     | 110 名）   |         |             |      |
| (3) 参加者分析   | 中学生以上         | 36 名 小学生 | 33 名 幼児 | 3 名 計 25 家族 | 72 名 |
| (4) 参加者地域   | 広島県           |          |         |             |      |

### 6 参加経費

1,450 円（運賃・見学科料含まず）

## 7 講師等

原田 康男（三江線活性化協議会事務局員）

吉田 勇希（三江線活性化協議会事務局員）

田中 秀樹（石見銀山ガイドの会）

近藤 明良（石見銀山ガイドの会）

森脇 岸江（石見銀山ガイドの会）

伊藤 寿美（石見銀山ガイドの会）

流水真理子（国立三瓶青少年交流の家研修指導員 キャンドルのつどい指導）



キャンドルのつどいにて

## 8 事業の内容

### (1) 事業の特色

本事業は、国立三瓶青少年交流の家周辺にある地域資源（三江線・石見銀山・三瓶山）を活用したモデル的プログラムの開発事業である。三江線から見える美しく紅葉した山々と江の川が醸し出す風景や三瓶山の紅葉、そして石見銀山で働かれた先人たちの知恵と努力によって受け継がれてきている人と自然の調和など、自然美と人の知恵、人と自然との絆にふれることで、環境について考えるきっかけとする。

### (2) プログラムデザインと企画のポイント

#### ○講師等との連携

まず、三江線では JR 西日本大田市駅と連携して、本来 1 両編成の車両を 2 両に増やし、プログラムに合わせた臨時便を運行した。途中、天空の駅として有名な宇都井駅に 30 分停車し、写真撮影会や車両見学会を行えるよう依頼した。車内では三江線活性化協議会の講師に、ただ乗車するのみでなく、より深く三江線にふれてもらうよう、沿線の歴史や風土、風景の解説を依頼した。



三江線臨時便

石見銀山では、専属のガイドに案内してもらい、石見銀山の価値である自然環境と共存した産業遺跡とそこに住む人々の調和した姿にふれてもらうようガイドに依頼した。

またキャンドルのつどいでは、親子間でのふれあいを通して絆を深めるアクティビティをしっかりと織り込むよう外部研修指導員に依頼した。

#### ○感動体験を織り込む

三次市（広島県）と江津市（島根県）とを結ぶローカル線である三江線、周辺の環境に配慮した「自然環境と共存した産業遺跡」である石見銀山、大山・隠岐国立公園内にある三瓶山の紅葉などを訪れ、各地で講師の方の話を聞き、直接感じる体験をした。その体験を通して、自然のもつ素晴らしさや美しさ、人の歴史の重みを感じ、地域・自然に愛着をもち、人と自然との共生を環境の観点から考える機会を提供した。また、キャンドルのつどいでは、親子の絆を深めるための共同体験として、ろうそくの灯に照らされながらレクリエーションなどを行った。

(3) 広報のポイント

出発地が三次駅であるため、主に広島県三次市、庄原市、安芸高田市の小学生保護者に広報をかけた。また、三江線や世界遺産石見銀山などの知名度を活かし、新聞等を通して、広く事業を周知した。

(4) 日程表

11月 23日 (金)	12:30	13:00	15:00	15:30	17:10	17:40	19:00	20:30	21:30
	三次駅集合	<b>三江線</b> 三次駅発～浜原駅着 ※講師あり	入所	<b>カブラ</b>	タへのつどい	夕食	<b>キャンドル のつどい</b> ※講師あり	入浴	就寝

11月 24日 (土)	6:30	7:00	7:40	8:40	9:00	10:00	14:00	15:00	16:40
	起床	朝のしぐし	朝食	退所点検	移動	<b>石見銀山見学</b> ※講師あり	移動	<b>三江線</b> 浜原駅発～三次駅着	解散

(5) 運営のポイント

○見通しのもてるプログラムの提示

- ・事前に行動予定表を配布し、見学場所での注意点や食事場所等のインフォメーションを行った。また当日配布のしおりには、宿泊部屋番号やバスの乗車グループ、見学グループを示したり、より細やかな行動予定表を載せたり、館内案内図や見学場所の案内を載せたりした。
- ・場所を移動するたびに、参加者を集め、健康状態や心理状態の把握に努めた。そして、その都度、次の集合時間、行動予定、集合場所をパネルで明示した。

○担当者間・担当者と講師による連絡調整

- ・三江線車内に事業担当者を2名、公用車運行に1名割り振りをし、担当者間で連絡をとりあいながら、次の行動や緊急時の対応に備えた。
- ・いずれの講師の方々とも事前に打ち合わせを行うようにした。また当日の急な変更についても、事業担当者が見学場所へ先回りをして打ち合わせを行い、変更点について柔軟に対応していただけるようにした。



石見銀山ガイドの会による解説

(6) 安全管理のポイント

○活動が広範囲のため、公用車を必ず用意した。

また、三江線・バスにも引率として、事業担当者2名が付き添った。銀山を見学中は、4グループ間を行き来し、常に参加者の状態を確認するように努めた。

## 9 アンケートの満足度・主な記述（利用者の満足度 100%）

- 快適に過ごすことができ、子どもにも時間を守ることなどの団体生活の大切さも少しは分かったのでは・・・と思っています。キャンドルのつどいは親子で一緒に経験できることはないと思うので、とても貴重な時間だったと思います。ゲームも楽しく、他の家族の方とも交流ができるきっかけになりました。
- 親子で秋の行楽、とても楽しく過ごさせていただきました。キャンドルサービスとゲームがとても楽しかったです。石見銀山も初めてでしたが、すばらしかったです。またこのような企画に参加したいと思いました。
- 今までにないプログラムだったので、楽しみに参加させていただきました。細かいところまで気が配られていて素晴らしいと思いました。
- 初めて子どもとこういう事業に参加して、とても貴重な体験をさせていただきました。担当の方も講師の方もとても良く、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。本当に参加させてもらってよかったです。子どもとも良い思い出ができました。ありがとうございました。応募が多かったとのことで、無理かもしれませんが、機会があればまたぜひ参加したいです。



## 10 成果と今後の課題

### <成果>

- 自然と人間との共生という環境教育の視点を盛り込んだプログラムができ、人・自然・地域など現地で直接体験をすることで、環境について考えるきっかけができたと思う。
- 各種団体とつながりができ、新たなワーキングネットワークを構築できた。
- 予想を上回る応募（当初予定の2倍超）があり、三江線・石見銀山・三瓶山などの魅力を改めて知ることができた。また、親子、家族間での交流も図られたことに満足をされた方もいた。

### <課題>

- 公共交通機関を利用したので、時間的な束縛があり、やや物足りなさをもたれた参加者もいた。特に石見銀山は、もっとゆとりのあるプログラムにするべきだった。
- 急遽キャンセルが出た場合の対応や参加者の年齢構成など、連携した各種団体ともっと細かく連絡をとる必要があった。

## 11 普及計画・普及実績

成果については当施設ホームページで紹介する。また、事業報告書を作成し、青少年教育施設、青少年教育関係機関等に送付し成果の普及を図る。

（担当 小畑 隆夫）